

茨高の授業は、先生方が丁寧で熱意のこもった授業をしてくださいます。重要なポイントは何度も説明してくださいますし、図解や資料映像などを通して私たち生徒の学習への理解度と学問に対する興味関心を深めてくださいます。古文単語や世界史や政治経済の用語小テストなどは毎週実施され、知識の補完と定着が進み大学入学共通テストレベルの力を付けることができました。また放課後に実施される課外授業は自分のレベルに合わせて講座を受講することができ、先生方が用意してくださった入試の過去問やプリントなどを活用することで更なる学力向上に繋がります。

進路指導においては東北・筑波・茨城大の国公立大や中央大等の有名私立大の方が来校し、それぞれの大学の校風や入試問題のポイントを説明してくださいました。また毎年、予備校から担当の先生が来校し、偏差値と学習の関係性や入試の仕組みや入試の費用に関して講演してくださったことで受験生としての当事者意識が形成されました。さらに茨高は英語教育にも非常に力を注いでおり、海外の大学生・大学院生と経験豊富なファシリテーターの指導の下で英語のみでディスカッションや寸劇・プレゼンテーションを行うインタラクティブフォーラムや、カリフォルニア大学の学生や教授と昨今のコロナウイルスなどの時事問題や環境問題などに関してディスカッションを行うグローバルセミナー等の外部機関と連携した英語教育が充実しています。また高1はオンライン英会話がカリキュラムとして組み込まれており、毎週英会話に触れる習慣が生まれ会話力の向上も図ることができます。

私は怪我などの理由で部活動に参加することができなかつたため、高校3年間で何か成果を残すために準1級取得を目標として英検学習に力を入れました。英検2級は高校進学前から数回受験していたこともあったので、高1の秋頃に取得しました。高1冬から高2冬まで新型コロナウイルスによる臨時休校が度々あったため、定期試験や受験勉強の傍らで英検準1級の学習を進めていきました。準1級は2級に比べて単語の数が圧倒的に多く、長文の内容もけた違いに難しかったため参考書を何度も周回しました。しかし、高2冬で初めて受験した際は残り数点のところまで不合格、高3春に受けた2回目は全然点数が足りずに不合格となりました。受験まで残り半年を切った段階でかなり焦りました。かなり気持ちも落ち込みながら勉強は続けていたものの、ほぼ惰性で受けた3回目ようやく合格しました。長文の内容がたまたま予備校の先生から聞いたことのあった学説であったことや、過去2回に比べて単語を覚えていたことが功を奏しました。

私は姉が茨高の卒業生で、幼少の頃から体育祭や文化祭などの行事に足を運んだことがあり、馴染みがあったので進学しました。また課外授業が教材費などを除いて基本全額無料であることなども非常に魅力的でした。一貫生との関係ですが、高3でクラスが一緒になるまでには基本的には部活動に入らない限り関係はあまり生まれませんと思います。文化祭やクラスマッチの時とかに仲良くなれると思います。

地方自治体の運営や経済学など多くのことに興味があるので幅広い分野を学んでいきたいと考えています。将来としては、公務員か一般企業に就職することをぼんやりと考えていますが、ゆくゆくは目指すものをきちんと決めていきます。茨高の建学の精神である「報恩感謝」を胸に、今まで私を育てていただいた両親や学校へ感謝の気持ちを持って恩に報いていきたいです。